

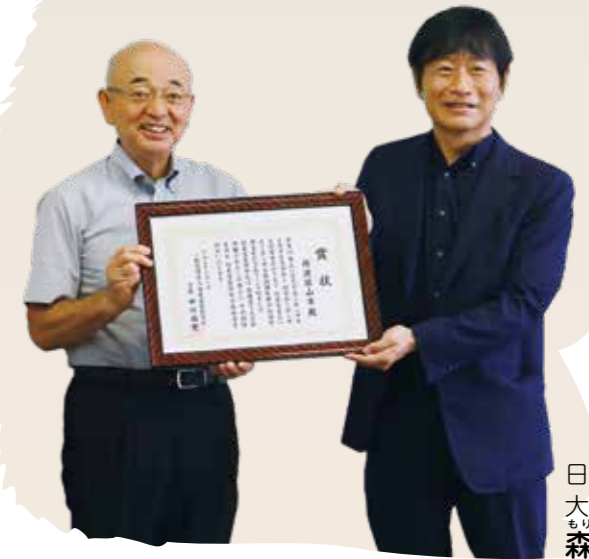
ニホンザルの農業被害防止対策で

日本霊長類学会から 功労賞を受賞しました

日本各地で、ニホンザルによる農作物被害が深刻化する中、先進的な手法でニホンザルの保全と管理において着実に成果をあげてきた丹波篠山市。これまでの取り組みの功績が認められ、7月8日に神戸市で開かれた「第39回日本霊長類学会大会」において功労賞が贈られました。

今回は、これまでの活動を振り返るとともに、ニホンザルの被害防止対策について、皆さんとともに考えていきたいと思います。

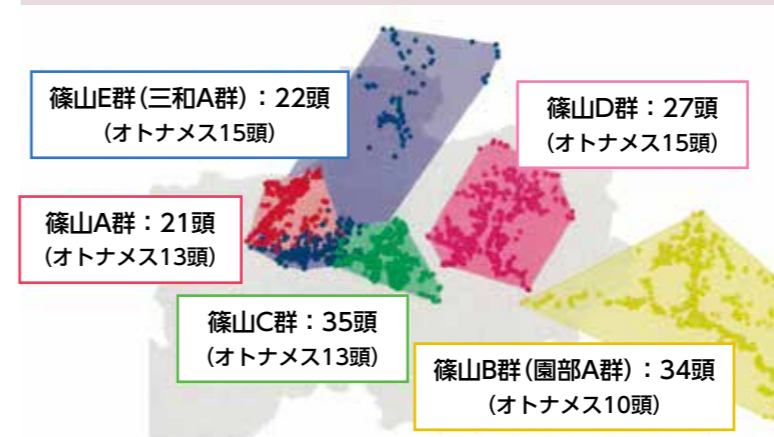
問い合わせ 森づくり課 ☎552-1117



日本霊長類学会
大会大会長
もりみつよしき
森光由樹さん

故河合雅雄先生が唱えた理念「人と野生動物との共生」を实践

市内に生息するサルの群れの分布と頭数



市内には5群のニホンザルが生息し、農作物が食べられるなどの被害が発生したことから、被害対策に取り組んできました。平成29年度には、府県をまたいでサル被害対策に取り組む隣接市町や府県機関と連携し、大丹波地域サル対策広域協議会を設立。兵庫県森林動物研究センターの協力により、サルの個体数を把握するとともに、各群れのサルに発信機を装着し、サル監視員が群れの動きを調査。その結果をサル位置情報配信システム「サルイチ」に投入し、被害対

策に活用できるようにしました。捕獲や被害防除による対策としては、小型檻に加えてICTを活用した大型檻も活用し、適正な個体数の管理を進めてきました。また、農地を被害から守るため、市民の皆さんにはサル用電気柵「おじろ用心棒」の設置を支援。約100キロにわたり敷設するとともに、サル追い払い犬(モンキードッグ)の育成にも力を入れてきました。

このほか、集落ぐるみの追い払いにつなげるため、電気柵の維持管理の指導や住民主体の追い払いについて、NPO法人里地里山問題研究所さまと連携し、実践的な対策技術を学ぶ出前講座を実施。また、動物追い払い用煙火を使用するための講習会なども行っています。これらの取り組みが評価され、平成29年度には農林水産大臣賞を受賞しています。

今回の受賞には、日本霊長類学会の初代会長を務めた河合雅雄さんが唱えられた「人と野生動物との共生」という理念の実現に向けて、捕獲を最小限にしながら、地域個体群の保全に尽力してきたこと、大丹波地域サル対策広域協議会という府県をまたいで広域に取り組んでいる点が高く評価されました。

サルの被害防止対策

菅地区の取り組み

菅地区には、篠山C群という35頭のサルの群れがえさを求めて定期的に移動しています。そこで、地区内に電気柵の設置を進めました。また、地区内のメンバー15人でLINEグループをつくり、サルの監視員から送られてくるメール情報をもとに、花火を使用し追い払いを行っています。そのかいあって、被害も少なくなってきました。サルの対応は、追い払いが基本です。「ここは危険だ」とサルに教えるために、引き続き被害削減に向けて全力で取り組んでいきます。



菅自治会長 岡本常博さん

サル監視員による活動

市内に生息するサルの群れを監視するため、サルに取り付けた発信機の電波を受信機(アンテナ)で確認し、それぞれの群れの位置情報を午前と午後の2回、サルイチの登録者(777人)に流しています。サルの居場所を確認するため、1日約250キロを車で移動することもあります。移動することもあり、サルメールが被害を防止する一助になっています。ことをうれしく思います。今後も、地域の皆さんがサルの追い払いに取り組めるよう、サルの監視活動にまい進します。



サル監視員 岡良彰さん

モンキードッグの活用

サル追い払い犬に認定されて2年目になります。私たちが住む大上地区はサルの群れの移動コースになっていますが、毎日のようにピートと散歩するようになると、家の周りは、以前ほど長く居座ることが少なくなりました。こうしたことを繰り返すことで、「ここは危険な所だ」と、サルへのメッセージになったと思います。現在、地区ではサル追い払い犬はピート一頭ですが、地域に広がり連携できれば、もっと効果は上がると思います。



竹本雄一さん、ピートくん

農作物野生鳥獣被害対策 アドバイザー 京極暁さん



市内に設置の捕獲檻を活用して、ニホンザルの個体数調整を進めてきた結果、農作物への被害も着実に減少傾向を見せています。しかし、活動域が変わり、新たな被害地も発生し、まだまだ予断を許さない状況です。

農作物を守るには、集落や畑に近づかせないのが一番です。屋外にはエサとなるような農作物を保管せず、廃棄野菜や生ごみなどもきちんと処分し、サルのエサ場をなくしていくことが必要です。「野生動物は生き残るために食べ物を探して行動」していますので、エサがなければ集落や農地に来る理由がない!と常に意識していただきたいと思っています。また、侵入を防ぐために電気柵の日常管理も重要です。

サルの被害対策でお困りのことや分からないことがあれば、お気軽にご相談ください。



オーガニックビレッジの取り組みが進んでいます！



有機黒大豆の実証

農家の皆さんが実践する農作物の栽培方法(慣行栽培)を有機栽培に転換できるかを実験するため、農事組合法人なちゅらは一もに一さんのほ場を利用し、有機肥料の施肥が行われました。指導に当たった中末農園の中末智己さん(写真左)は、「虫や病気の被害をいかに少なくするかが一番の課題です」と話されました。



水田用除草機の普及推進

市内4カ所(殿町・下板井・東木之部・岩崎地区)の水田で、それぞれ水田の規模ごとに違う種類(小規模・中規模・大規模など)の除草機を使用した実証実験を行いました。除草機の使用前・使用後の雑草の種類や量などを把握するとともに、その効果を検証し、有機水稲栽培面積の増加に向けて取り組みます。



SNSでの情報発信

丹波篠山ワクワク農都づくり協議会のインスタグラムでは、水稲・黒大豆の実証試験の様子など、協議会の活動を随時発信しています。

以下の二次元コードを読み取ると、協議会のアカウントにアクセスできます。興味のある方は、ぜひ、ご覧ください。



～有機農業にふれてみよう～ 持続可能な農村をめざして



国の食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立を技術革新で実現する「みどりの食料システム戦略」を国が策定したことを受け、丹波篠山市では4月27日に、有機農業を地域ぐるみで推進する「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

問い合わせ 農都政策課 ☎552-1114



有機水稲の生育観測のために、草丈や葉色値を自動計測する機器を設置したほ場(殿町)

有機農業のすそ野を広げたい

私たちの子どもの世代にどのように農業や食料のことを引き継いでいくのかを考えると、有機農業は取り組まなければならない課題だと思います。しかし、栽培技術は有機農業者の個々の技術にとどまっています。そこで、市内有機農業者や認定農業者が、自分たちで栽培技術を確立させようと、先陣切って取り組んでいます。この1年間、試験も進めたうえで、皆さんの取り組みやすい形にできるようにがんばりたいと思います。海外では市場が広がっていますが、日本はまだ遅れをとっており、これから拡大していく市場に 대응するためにも、今後は収穫量や品質を確保していくことが大切です。栽培技術の向上やコスト削減に向けて取り組み、有機農業のすそ野を広げていきたいと思っています。



丹波篠山ワクワク農都づくり協議会
中島武史 会長

丹波篠山市では4月27日、有機農業を生産から消費まで地域ぐるみで進める「オーガニックビレッジ宣言」をしました。

今後は、農業者団体などで構成された丹波篠山ワクワク農都づくり協議会(中島武史会長)が策定した「丹波篠山ワクワク有機農業実施計画」(計画期間：令和5年度から令和9年度の5年間)に基づき、情報通信技術(ICT)を活用した実証実験(水・土づくり・防除管理、除草など)を通して、米や黒大豆の有機栽培技術の確立・普及を図り、有機農業者の増加をめざします。

また、販路拡大に向けたマルシェや、多くの方にオーガニックを知ってもらうためのシンポジウムや勉強会を開催し、流通・消費の面からも有機農業の取り組みを推進します。

国では、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地をオーガニックビレッジとして、2025年までに国内100地区を創出しようとしています。農業者、事業者、消費者それぞれの立場から、さまざまな活動を通して理解を深め、地域で有機農業を支援していく取り組みです。

オーガニックビレッジ宣言とは

「丹波篠山ワクワク有機農業実施計画」に基づき、

水稲

- (1) 水田用除草機の普及推進
- (2) 緑肥などを活用した土づくり技術の検討
- (3) 新たに有機水稲を栽培する生産者の増加
- (4) 有機栽培米の販路拡大および地産地消の推進

黒大豆

- (1) 有機栽培に取り組む農家の情報共有の場づくり
- (2) 有機黒大豆の栽培技術の確立(栽培規模別の実態把握等)
- (3) 有機黒大豆栽培への転換方法の検討
- (4) 緑肥を活用した土づくり技術の検討

5年間で取り組む内容

普及啓発・情報発信

- (1) ウェブサイト・SNSの運用(ウェブサイト・SNSによる取組推進)
- (2) 広報紙などによる情報発信
- (3) 有機栽培技術についての勉強会開催
- (4) マルシェの開催
- (5) 有機JAS認証に向けた取組推進(農業者グループの形成)
- (6) 新規就農者のサポート体制づくり



9月は みんなで認知症を考える月間です

9月1日から29日まで、認知症に対する関心や理解を深めるため、「認知症と共に笑顔で暮らせるまちに！」をテーマに、さまざまな取り組みを推進します。

■ 市役所庁舎をオレンジ色にライトアップ

期間 9月20日(水)～27日(水)



■ 市役所・公共機関・民間事業所等の窓口をオレンジ色に装飾、チラシ配置による啓発

期間 9月1日(金)～29日(金)

■ 商業施設での街頭キャンペーンの実施

とき 9月10日(日)

■ 市内高等学校の取り組み

- 篠山東雲高等学校
オレンジ色のマリーゴールドをプランターで栽培
- 篠山産業高等学校
街頭キャンペーンでの協力
- 篠山鳳鳴高等学校
認知症サポーター養成講座(9月3日)での朗読

認知症サポーター養成講座

この講座は、認知症に対する正しい知識と理解をもち、認知症の方やその家族を温かく見守る応援者として、自分のできる範囲で活動する「認知症サポーター」を養成する講座です。認知症について正しい知識を学んでみませんか。
全国の認知症サポーターの数は1,464万5,915人(令和5年6月時点)にものぼり、市内の認知症サポーター数は1万2,260人(令和5年6月時点)となりました。
(認知症サポーター養成講座は何度でも受講できます。)

とき 9月3日(日) 13時30分～15時30分

ところ 丹南健康福祉センター

内容 ●朗読「手紙～親愛なる子供たちへ～」
年老いた親の思いや願いなど、わが子に向けたメッセージを高校生が紹介します。
●講義 テーマ＝「認知症になっても私らしく暮らしたい」／講師＝松本ゆかり(丹波篠山市長寿福祉課課長)

問い合わせ 長寿福祉課 ☎552-5346

認知症に関する相談窓口

業務時間

月～金曜日(祝日・12月29日～1月3日を除く)
8:30～17:15

- もの忘れ相談センター
市役所 第2庁舎 長寿福祉課内 ☎552-5346
- 西部地域包括支援センター(西紀・丹南・今田地区)
丹南健康福祉センター内 ☎594-3776
- 東部地域包括支援センター(篠山・城東・多紀地区)
城東公民館内 ☎556-2340

つどいの場(認知症カフェ以外)を紹介します!

認知症の方と介護をされている家族の集い

当事者しか理解できないことをみんなで話し合いませんか?
開催日 毎月第3水曜日
時間 13時30分～15時
場所 丹波篠山市市民センター
参加費 コーヒー代380円～
問い合わせ 前川洋一さん ☎552-2535

つどい場 お茶の実

老いや介護とともにある心豊かな暮らしを自分らしく送れるように、ゆるやかにつつながら出会いを大切にします。
開催日 月・木(第2月曜日、祝日除く)
時間 13時～16時
場所 住吉台92-1
問い合わせ 原美由紀さん ☎090-7109-6734

●かやのみカフェ
日時 奇数月第4月曜日
場所 日置ほつとステーション
参加費 100円

●りんごカフェ
日時 毎月第2水曜日
場所 西紀老人福祉センター
参加費 200円

●カフェやすらぎ
日時 毎月第3水曜日
場所 古市コミュニティ消防センター
参加費 100円

●たきたきカフェ
日時 毎月第3水曜日
場所 旧保健センター
参加費 100円

●市内認知症カフェ一覧
日時 毎月第2月曜日
場所 城下町会館
参加費 100円

認知症カフェ開催



認知症の方やその家族、地域の方、ボランティアや専門職など、誰もが気軽に参加できる「つどいの場」です。
一人で悩まずに、お茶を飲みながらお話をし気分転換、ストレスの発散を一緒にしてみませんか。
専門職にも相談できます。

地域・チームで支える
市では、一人ひとりが認知症について正しく理解できるように、認知症サポーター養成講座を行い、認知症の正しい知識と関わり方を伝えていきます。
この講座を受講された方を「認知症サポーター」といい、日常生活の中で認知症の方と出会ったときに認知症の方とその家族を見守り、応援者になることが期待されています。

知っていますか 認知症のこと
認知症とは、いろいろな原因によって脳の働きが低下し、社会生活や日常生活に支障が出ている状態をいいます。日本における認知症の患者数は、2012年で約460万人と65歳以上の高齢者の約7人に1人と推計されていますが、2025年には約700万人で、65歳以上の高齢者の約5人に1人が認知症になると予想されています。
認知症は誰もがなりうる病気で、ほとんどの人が向き合わなければならないのが現実です。高齢化が進む日本において、認知症の方の増加に対する取り組みが今後ますます重要になります。

認知症とともに笑顔で暮らせるまちに!

認知症への理解や支援を表すオレンジリング

9月21日は「認知症の日」です。市では、認知症になっても安心して暮らすことができるようにキャラバン・メイト活動に取り組んでいます。地域で認知症の方を支えるために、私たちに何ができるのか、この機会と一緒に考えてみませんか。

問い合わせ 長寿福祉課 ☎552-5346

認知症キャラバン・メイトの皆さん



キャラバン・メイトとしての活動の思い



稲川千鶴子さん

母親が認知症となり、地域の方のお世話になりました。それが縁で、人の役に立ちたいと思い、活動に取り組んでいます。認知症を正しく理解し、認知症の方とその家族を見守り支えようという気持ちをもってもらうことを目標にしています。

認知症サポーター養成講座で講師を務めるのが認知症キャラバン・メイトです。キャラバン・メイトとは、所定の研修を受講した方で、市内で約20人の方が活動されています。キャラバン・メイトの皆さんは、地域や職場、学校などで講師役として活躍。認知症の原因や症状、対応について、分かりやすく説明するなど、認知症の方やその家族が幸せに暮らせるような社会になるよう取り組まれています。